

COLLECTION EXHIBITION

Collection Focus: Unknown Paintings and Words of Kunihiro Sasaki,
Painting Mountains

佐々木邦彦《群峰》1960年 個人蔵



同時
開催

戦前戦後の前衛—特別展「没後30年菅井汲」にちなんで
Prewar and Postwar Avant-Garde in Connection to the SUGAI Kumi Exhibition

佐々木邦彦
知られざる絵と言葉

山を
描く
コレクション・
フォーカス

高原をはって雲は疾
走した 雲の切れ目
で白樺を動かす風が
鳴った いかんとも
しがたい季節の重い
声がそこにあった

—佐々木邦彦「群峰」(抜粋)—

2026 10 | 17 土 → 2027 1 | 17 日

【開館時間】9:00～17:00 ※金曜日は19時まで開館 ※入場は開館の30分前まで
【休館日】月曜日(特別展の会期中・祝日・振替休日を除く)、12月25日～1月1日(年末年始)
※11月30日(月)は展示替えのため閉室

【入館料】一般510(410)円／大学生310(250)円 ※()内は20名以上の団体
【縮景園共通券】一般660円／大学生350円 ※特別展は別料金
◎高校生以下無料 ◎当館で開催中の特別展入館券にて無料でご覧いただけます。
◎障害者手帳をお持ちの方や65才以上の方、県内の大学に在学する留学生の方などは無料(1階総合受付でお申し出ください)。



広島県立美術館
Hiroshima Prefectural Art Museum

2階展示室

<https://www.hpam.jp/>

所蔵作品展

第3期

【概要】

第3期 コレクション・フォーカス

山を描く 佐々木邦彦—知られざる絵と言葉

／戦前戦後の前衛—特別展「没後 30 年 菅井汲」にちなんで

1968（昭和 43）年に開館した広島県立美術館は、1996（平成 8）年に現在の建物に生まれ変わり、所蔵作品展と特別展という両輪によって美術の魅力を発信しています。

当館は開館以来、多くの方々のご協力を得てコレクションを充実させてまいりました。収集重点方針として「広島県ゆかりの美術」「1920～30年代の美術」「日本およびアジアの工芸」を掲げ、現在は総数 5,400 点を超えています。

さて、今期の所蔵作品展は、本県ゆかりの巨匠を一望できる「ウェルカムギャラリー」と、「戦前戦後の前衛—特別展『没後 30 年 菅井汲』にちなんで」、さらにコレクション・フォーカス「山を描く 佐々木邦彦—知られざる絵と言葉」の 3 本立てとし、当館コレクションをさまざまな視点でご紹介いたします。

さらに、皆さまに感想をお書きいただき交流できるコーナー、美術講座やギャラリートーク、インスタグラムのライブ配信といった関連イベントも開催しつつ、さまざまな角度から当館コレクションの魅力を発信します。また、毎月第 3 日曜日のフリートークデーも継続いたします。

ご来館のたびに新しい美の魅力を発見し、心と癒やされる展示をめざし、努力を重ねてまいります。今後の当館の活動にもご期待ください。

【第Ⅰ展示室】

戦前戦後の前衛—特別展「没後 30 年 菅井汲」にちなんで

やぎ かずお
八木一夫のまなざし——西洋美術と前衛陶芸

戦後間もない 1948(昭和 23)年に前衛陶芸家集団「そうていしゃ走泥社」を結成し、器としての機能を持たない「オブジェ焼き」により、陶の世界を追求した八木一夫(1918-1979)。初期にはマックス・エルンストやパウル・クレーら西洋の芸術家に惹かれ、その影響を感じさせる陶芸作品を発表しました。また、パブロ・ピカソやイサム・ノグチといった画家・彫刻家が手掛けたやきものに触発され、陶芸の新たな可能性を切り拓きました。

3階展示室では、10月2日～12月6日の間、「没後 30 年 菅井汲」展を開催していますが、国際的に活躍した画家・菅井汲(1919-1996)と八木はほぼ同い年にあたります。ふたりの立ち位置は違えども、西洋の動向を見つめつつ前衛を走り続けたその仕事には、共通する思想を感じていただけるのではないのでしょうか。

文筆にも長け、西洋美術についても様々な言説を残した八木はこう述べています。「新しいものと古典との結婚、これが私のねらいです。ピカソやクレーの近代絵画と、渋いロクロの味を、作品の上でどう調和させるかが私の仕事です。」この部屋では、八木の陶芸作品とともに、西洋美術作品を彼の言葉を介しながらご紹介します。



八木一夫《盲亀》1964年 広島県立美術館蔵



パウル・クレー
《お金を数える老人》1929年
広島県立美術館蔵

【第2展示室】

戦前戦後の前衛—特別展「没後 30 年 菅井汲」にちなんで

特別展「没後 30 年 菅井汲」関連企画 小品の楽しみ

この展示室では、当館で初開催となる菅井汲の特別展に^{ちな}因み、比較的小型の油彩画に焦点を当てて菅井の画業をご紹介します。

作家の回顧展を企画する際、小品や資料をどこまで展示するかということは、学芸員にとって悩ましい問題といえるでしょう。代表作といわれる作品は、概ね展覧会出品作をはじめとする大型作品が多く、それらを軸に画業の変遷を追うのが企画の常道です。一方で、満を持して展覧会に送る大作の前段には小品での試行があることも多く、そうした作品は、作家のひらめきを率直に伝える貴重な存在です。あるいは、小品制作に^{とど}まり、長らく顧みられることのなかった構想が、画業の成熟の後に大作に結実する例も少なくありません。試行としての小品は、様々な意味において創作の秘密を解き明かす可能性を秘めているともいえるのです。

多くの時間をアトリエで過ごした菅井は、その理由を、ひらめきを逃すことがないように、思い立ったらすぐに制作にかかれるようにするためだと語っています。豊かな可能性を持つ小品を、関連する大作とともにご鑑賞ください。



菅井汲
《太陽の門 黒》1969 年頃
広島県立美術館蔵



菅井汲
《不詳》1964 年
広島県立美術館蔵

【第3・4展示室】

コレクション・フォーカス

山を描く 佐々木邦彦—知られざる絵と言葉

本展は、京都を拠点に活躍した広島出身の日本画家・佐々木邦彦（1909-1972）の画業を紹介する初の回顧展です。

川端龍子^{かわばたりゅうし}に師事した佐々木は、青龍展や個展を舞台に活躍し、「山の画家」として独自の表現を追求しました。その特徴は、自ら過酷な自然へ分け入り、山を単に「絵画」として画面に収めるのではなく、「山そのものの精神」へ迫ろうと真摯な葛藤を重ねたところにあります。

圧倒的なスケールを誇る大作は、従来の日本画に見られる抒情性とは一線を画す、鋭く研ぎ澄まされた詩情に満ち、粗く鋭い筆致と重厚な色彩によって厳粛な迫力を放っています。本展では、青龍展出品の現存する大作6点を一堂に展示し、初期から晩年までの画業をたどります。

また、佐々木は詩人としても活動しました。脚本家・依田義賢^{よだ よしたか}らと詩の同人グループ「骨」を結成するなど鋭い言葉を紡いだ試みに迫り、絵画と同じく彼の核であった詩の世界をあわせて紹介します。また、同郷の丸木位里^{まるき いり}や中谷ミユキ^{なかつたに}らの作品や資料を通じ、故郷・広島とのつながりにも光を当てます。

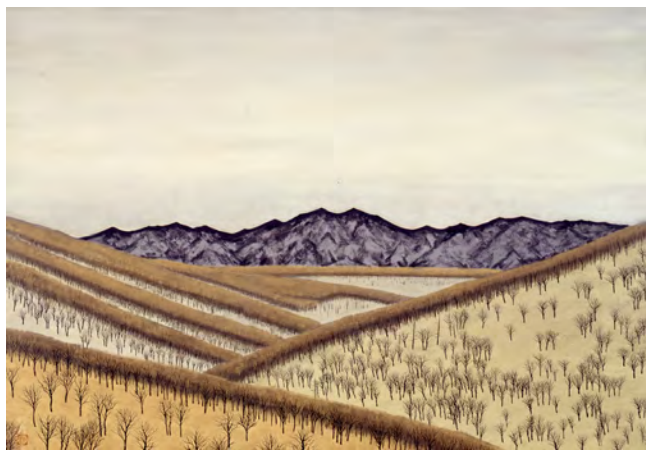
佐々木邦彦の静謐な創作世界をぜひご覧ください。



佐々木邦彦《山稜（北アルプス薬師岳展望）》1963年 個人蔵

press release

山を
描く
佐々木邦彦
知られざる絵と言葉
コレクション
フォーカス



佐々木邦彦《連嶺》1970年 広島県立美術館蔵



佐々木邦彦《山勢》1965年 個人蔵

【ウェルカムギャラリー】

当館では、2021（令和3）年からウェルカムギャラリーを設けています。みなさまへの歓迎の気持ちと、「多くの方々の美術への誘いとなるように」との願いを込め、この場所を「ウェルカムギャラリー」と命名しました。当館の顔ともいえるべき大理石に囲まれた展示室で、美術への関心の度合いに応じて選べる作品解説をご用意しています。また、当館の成り立ちをご紹介する動画を展示室の入口で上映しています。

ここでは、「これが、県美の広島愛」をテーマに、広島県ゆかりの著名作家である、洋画家のこばやしせんこ みなみくんぞう あいみつ小林千古・南薫造・翫光、日本画家のこだま きぼう おくだ げんそう ひらやまいく お児玉希望・奥田元宋・平山郁夫、彫刻家のひらくしてんちゅう えんつば かつぞう平櫛田中・圓鍔勝三、
工芸作家のろっかく しすい しみず なんざん いまい まさゆき六角紫水・清水南山・今井政之の作品を一堂に展示します。作家を育んだ広島という地域の特性や、作家の広島への想いを伝えるエピソードとともに、当館が誇る名品の数々をご覧ください。

美術が好きな方も、これから好きになる方も、どうぞお気軽にお楽しみください。



【関連イベント】

■美術講座「山を描く 佐々木邦彦—知られざる絵と言葉」

日時：2026 年 11 月 22 日（日）13:30 ～ 14:30

場所：地階講堂

講師：神内 有理（当館主任学芸員）

※聴講無料 ※要事前申込（電話 082-221-6246）

■ワークショップ「ことばが山になる」

会期中、2 階第 4 展示室前

協力：広島大学教育学部造形芸術系コース・美術教育学プログラム

※使用する台紙の数に限りがあります

■ギャラリートーク「山を描く 佐々木邦彦—知られざる絵と言葉」

日時：2026 年 10 月 30 日（金）15:00 ～

場所：2階展示室（3室・4室）

講師：神内 有理（当館主任学芸員）

ゲスト：多田羅多起子（広島大学大学院人間社会科学研究科 准教授）

※要入館券、会場（3室入口）でお待ちください。

■ギャラリートーク「戦前戦後の前衛—特別展「没後 30 年 菅井汲」にちなんで」

日時：2026 年 10 月 23 日（金）15:00 ～

会場：2階展示室（1室・2室）

講師：山下 寿水（当館主任学芸員）、藤崎 綾（当館主任学芸員）、角田 新（当館学芸員）

※要入館券、会場（1室入口）でお待ちください。

■インスタライブ配信

閉館後の展示室内からギャラリートークをライブ配信します。（約 15 分間）

【3室】2026 年 11 月 17 日（火）17:00 ～

【4室】2026 年 12 月 1 日（火）17:00 ～

講師：神内 有理（当館主任学芸員）

公式インスタグラムはこちら



■フリートークデー

10月18日（日）、11月15日（日）、12月20日、1月17日（日）
9:00～17:00

子供も大人も自由に感想を話しながら気兼ねなく展覧会を楽しんでいただけるよう、フリートークデーを実施。当日は下記イベントも併せて行います。

●作品を探しに行こう！

当館所蔵品の一部がプリントされた缶バッジを配布します。どの作品がプリントされているか、展示室に作品を探しに行こう。

先着：30名

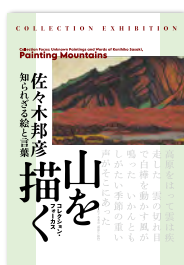
フリートークデー

自由に感想を話しながら
展覧会を楽しもう！

10	18	日
11	15	日
12	20	日
1	17	日

【その他】

■本展のミニガイドと、本展に協力する広島大学教育学部美術学生チームの学生が作製した「画家・佐々木邦彦レポートマンガ」の無料配布もあります。



本展ミニガイド

【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も本プレスリリースからの転用はご遠慮ください。

※都合により出品作品が異なる場合がございます。ご了承ください。

※画像については提供が可能です。掲載の際に画像が必要な場合は、当館へお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館へ提出していただき、
1 週間程度お時間を頂きます。ご了承ください。

※展示室内での筆記具の使用は鉛筆のみでお願いします。（ボールペンなど使用不可）

問い合わせ先

広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町 2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail iroeuma2@gmail.com

担当 学芸課 山下 寿水

総務課 広報担当 一色 直香

公式 SNS はこちらから

